

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

4/1
令和2年(2020年)
No.2275

荻窪の歴史を知り
まちづくりを考える。

「荻窪の三庭園」は、地域の皆さんにとってはおなじみの憩いの場であり、まちのシンボルといえます。今号では、地域をもっと知っていただきたいという思いから、三庭園の経緯やまちの歴史を少々ひもといてみました。歴史を知るとまちを見る目がまた変わるもの。さらに未来を見据え、荻窪のまちづくりに思いを巡らせてみませんか。



▲昭和初期の荻外荘(個人提供)

特集

荻窪の三庭園とその周辺を知る

～荻外荘・大田黒公園・角川庭園とその周辺

Contents — 主な記事 —

7 | 区立施設の使用料を見直しました 8 | 区民健康診査・がん検診などのお知らせ 16 | 新たな基本構想を創ります

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🏠 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



お知らせ

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本紙掲載の催し等が中止になる場合があります。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

荻窪の三庭園とその周辺を知る

～荻外荘・大田黒公園・角川庭園とその周辺

いろいろな歴史が詰まっています!

1 荻外荘

「荻外荘」は大正天皇の侍医も務めた医師・入澤達吉が、義弟である建築家・伊東忠太(※)に設計を依頼し建てた別荘で、伊東による現存する数少ない邸宅建築です。応接間の床には、伊東のデザインと言われている龍の文様の敷瓦が敷かれていました。



建物を含めた敷地全体が国指定史跡!

昭和12年、内閣総理大臣就任に伴う訪問客の多から逃れるため、東京郊外に邸宅を求めていた近衛文麿は、入澤達吉に荻外荘を譲り受けました。健康上の不安もあった近衛は自然に囲まれたこの地を非常に気に入ったと言われています。

※築地本願寺や西本願寺伝道院の設計を手掛けた建築家。

- 所在地：荻窪2-43 ●利用時間：午前9時～午後5時(南側敷地一部開放)
 - 休業日：年末年始(12月29日～1月1日)
- ※北側敷地と荻外荘は公開していません。

CHECK! ふるさと納税 国指定史跡 荻外荘(近衛文麿旧宅) 復原・整備のご寄附のお願い

歴史的意義があり、建築物としても貴重な荻外荘を往時の姿に復原し、訪れる皆さんをおもてなしできる公園として整備します。復原・整備に当たり、皆さんのご寄附をお待ちしています。

1万円以上ご寄附いただいた方には、荻外荘での折々の行事や公園整備の進捗状況を「荻外荘通信」としてお届けします。その他、ご寄附いただいた方を顕彰する仕組みを設けています。詳しくは、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」の「杉並区」をご覧ください。



荻窪の松林

今と昔が交差するまち 荻窪にある赤松は、かつてあった松林の名残、荻窪の原風景の1つです。

4 与謝野公園

明治・大正を駆け抜けた歌人たち 与謝野鉄幹・晶子夫妻の旧居跡につくられた公園です。夫妻の歌碑があり、近くの桃井第二小学校の校歌は晶子の作詞です。

- 所在地：南荻窪4-3-22

「荻窪」というまち

その昔、善福寺川が造り出す起伏豊かな地形の荻窪は、きれいな空気と、松林や富士山をも望める美しい眺めに恵まれていました。明治時代の終わり、そんな豊かな環境にほれ込んだ学者や財界人などから、東京都心に住みながら新たな邸宅を建てるための「別荘地」として、人気を集め始めます。その後、関東大震災を経て宅地化が進みましたが、当時の松の一部は、屋敷林として今でも大切にされています。

また、荻窪には作家や画家、音楽評論家などの芸術家や文化人も多く暮らしていました。その活動やモダンな生活ぶりは、今もこのまちに文化の香りを残しています。

もっと知りたい方は...!

すぎなみ学倶楽部

杉並好きの区民ライターが取材・執筆する区公式情報サイトです。区民目線でキャッチした杉並の魅力の記事にして公開しています! まち別ダイジェスト▶荻窪

すぎなみスタイル

「荻窪の三庭園を巡ってみよう」(元年5月19日)

杉並区公式チャンネル

古くから文化人や学者、政治家、財界人などが居を構えた「荻窪」。当時の東京都心からの近さに加え、善福寺川を見下ろすようにできた台地に豊かな自然が広がるその光景に、多くの人々が引きつけられたと言われています。

今号は、荻窪の三庭園を中心に、現在にまで残るゆかりのスポットをご紹介します。荻窪のまちづくりを考える上で、大切な「レガシー」をあらためて知る機会になればと思います。



5 長屋門(明治天皇荻窪御小休所)

明治天皇が立ち寄った荻窪の旧家 この場所に、明治天皇行幸の際、休息所として立ち寄られた建物がありました。長屋門は移築復元されたものです。

- 所在地：荻窪4-25-12

6 西郊ロッジング

和風旅館・人気賃貸アパートとして健在 昭和初期に随い付き高級洋風下宿として建てられた建物です。国の登録有形文化財。

- 所在地：荻窪3-38-9

2 大田黒公園

日本の音楽評論の草分け的存在である大田黒元雄氏の屋敷跡を区が回遊式日本庭園として整備し、昭和56年10月1日に開園しました。荻窪のゆるく起伏する台地に自然の地形を生かしたつくりとなっています。樹齢百年を超えるイチヨウ並木や当時としては珍しいベンガラ色の西洋風建築物(国の登録有形文化財)があり、生前大田黒氏が愛用していたピアノ・蓄音機などが展示されています。また、イチヨウやモミジが鮮やかに染まる11月下旬～12月初旬には、毎年ライトアップが開催されています。

- 所在地：荻窪3-33-12
- 利用時間：午前9時～午後5時(入園は4時30分まで)
- 休業日：年末年始(12月29日～1月1日)

3 角川庭園

俳人で角川書店の創設者である角川源義氏の旧邸宅を、区が遺族から寄贈を受けて改修し、平成21年5月10日に区立公園として開園しました。建物は、昭和30年竣工の「木造二階建瓦葺近代数寄屋造」で、国の登録有形文化財・区の景観重要建造物に登録されています。緩やかな南斜面であったため、建物の建築当時は善福寺川沿いに田んぼが広がる見晴らしの良い場所でした。ここでは、角川源義氏の俳句、写真、所蔵品の展示のほか句会・茶室・講座も催されています。

- 所在地：荻窪3-14-22
- 利用時間：午前9時～午後5時
- 休業日：水曜日、年末年始(12月29日～1月1日)

荻窪駅周辺まちづくり方針

区では、平成29年4月に「荻窪駅周辺まちづくり方針」を策定し、「歴史文化の薫り漂う、住んでよし、訪れてよしのまち」を目標の一つに掲げて、まちづくりを行っています。

今号で紹介した、魅力的で価値ある歴史的・文化的資源を生かし、まちの魅力を持続発展させる取り組みや、回遊性を向上させる取り組みなどを、気配り・思いやりのあるまち歩きのマナー等の呼び掛けと併せて、地域の皆さんと一緒に進めます。

詳細は、区ホームページをご覧ください(右2次元コードからもアクセスできます)。

区市街地整備課荻窪まちづくり担当